



就業形態の多様化

社団法人 中小企業診断協会 兵庫県支部

支部長 水口可保

あけましておめでとうございます。

新年を迎え皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げます。
日頃は診断支援事業や支部活動に格別の御協力、ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、最近の景気動向を見ますと製造業を中心とする大企業の業績が上向きになり、消費動向の指標になる百貨店の売上高も対前年比で上昇に転じた模様です。不況の期間が長いと若干のプラス要因でもそのハロー効果が期待されます。関西圏では「阪神タイガースの優勝」が関連需要を創出し心理的な効果も大きかったようです。

このような動きの中で主要産業の構造改革と雇用調整が進み、大量の失業者(5.4%・359万人)が発生して高止まりの状態が続いています。その主な要因は

- ① 構造改革に伴って人材のニーズが質・量両面で変わった。
- ② 主要業界での省力化が進み新規の求人減少(有効求人倍率0.54)。
- ③ 雇用ニーズと就業形態が変わり、正規雇用者が減少した。……等があげられます。

結果として2002年の就業者数は横ばい状態ながらパート、アルバイト、契約社員などの非正規雇用者が総雇用者の1/3を占め、就業形態の多様化が急速に進んでいます。

この就業形態多様化の背景を見ると次のようです。

- ① 経済の国際化に伴って企業の人事戦略が変わった……終身雇用制度の維持が困難になった。
- ② 雇用調整により正規雇用者が減少した……競争力維持のために固定費の削減が必要になった。

- ③ 若年層を中心にして就業意識が変わった……自己実現のために好きな時に必要なだけ働くという考え方が多くなった。

最近10年間は労働力人口(6,690万人/101.7%)が増加しているにもかかわらず就業者数(6,320万人/98%)はやや減少し、雇用者数(5,340万人/95%)が大きく減少しています。その内訳を見ると正規雇用者(3,890万人/87%)が大きく減少して非正規雇用者(1,450万人)が130%と大きく増加しています。この10年間だけでも就業形態が大きく変わったことが覗えます。

就業形態の多様化によって企業には「正社員が高度な仕事に専念できる」「仕事上の連携が円滑になった」「労働生産性が向上した」などのメリットがあります。しかし、一方では「ノウハウの蓄積、継承ができない」「機密漏洩の危険がある」「職業訓練を行っていく……」という問題点があります。又、非正規社員を活用していくためには「良質な人材の確保」が必要であり、「業務処理能力の向上」「正社員との業務分担及び人間関係」という課題があります。

いずれにしても企業が労働生産性を高め、競争力を強化するためには固定的な人件費の増加を防ぐ必要がありパート、アルバイト、契約社員、嘱託、SOHOなど多様な就業形態を活用していくことが重要な課題になります。そのために、人事戦略を見直し、より弾力的な人事・賃金制度を構築することが必要かと考えます。クライアントの競争力強化の視点から現状を再点検したいものです。

新年にあたり会員皆様の益々のご活躍を祈念します。

経営のヒント “人の誉め方”

人は「叱るより誉めること」が大切であることは、皆様もよくご存知のことと思います。

ところが、人の誉め方は実は難しいものです。人を誉める要素は心・技・体の3分野に大きく分類できますが、そのどれを誉めましても、その場では喜んでくれても、後へ好影響を与えることはありません。せいぜい3日間ぐらいのものでしょう。

私が研究しています誉め方は、個人なり団体の固有名詞を織り込んだボエムなどの作品を作り贈呈する方法です。

これだと額に入れて飾ってくれたり、コピーを人に見せたりと、効果が長続きすることが実証されています。

では、どのような作品を作ればよいのでしょうか。この答えはありません。強いて言いますと、一つの作品に固有名詞を出来るだけたくさん入れることと、印刷段階で額縁に入れたり、楽しい背景を入れることです。

副支部長 小川勝夫



新年にあたって

苟日新、日日新、又日新

財団法人ひょうご中小企業活性化センター
理事長 位田 武敏



謹んで新春のお慶びを申し上げます。
旧年中に皆様方から頂きました活性化センター業務へのご支援、ご協力に対しまして厚くお礼申し上げます。

SARS(新型肺炎)やイラク戦争等の暗い話題で年が明けた昨年でしたが、やっと、日本経済も緩やかながら景気持ち直しの動きが見受けられます。

日本経済新聞によると、03年9月期の中間決算を発表した707社の連結経常利益が02年同期比21%増となり、過去最高益を挙げている企業も少なくないそうです。そして、同社はこの好業績の理由を次のように分析し、DNAと表現していますのでご紹介します。

- D:好調に沸くデジタル家電景気が電機業界のみならず幅広い産業を潤し、マクロの景気を下支えしている。
- N:デジタル製品の部品や部材は多岐にわたるため、1つ1つの部材の市場規模が比較的小さく、このニッチ市場で高いシェアを持つ企業の好調さが目立つ。
- A:急成長してきたアジア市場が収益源としても育ってきており、今後アジア市場は稼げる市場となってきている。

しかしながら、中小企業にとっては、まだまだ厳しい状況が続いていると私どもは考えており、04年度においては、昨年4月に設立した「中小企業支援ネットひょうご」(目的:27の関係機関が連携して中小企業の活性化を図る)のさらなる連携強化を重点的に展開してまいりたいと考えております。技術開発、資金調達、人材確保など多くの中小企業が直面する課題を解決するための支援策を幅広く展開するだけでなく、成長が期待できる企業を総力を挙げて発掘し、吉岡昭一郎総括コーディネーターを中心とした個別案件検討会で選りすぐりの企業を目利きして選別し育成しようとするものです。

そしてこれら企業がもつ先駆的・独創的な技術力や先見性のある経営ノウハウ、そしてそれを事業活動に生かす活力などが他の企業の手本となり多くの企業に波及させることによって本県産業の構造改革への大きな力にしていきたいと考えております。

これまでの取り組みの結果、支援ネットへの認識も高まり、関係機関から発掘される企業は質量ともレベルアップしつつあります。平成16年度に向け支援策の充実を図るとともに、こうした支援策をテコに成長期待企業の育成をさらに促進してまいりたいと考えています。

新年にあたり「苟日新、日日新、又日新」(中国古典・大学)を合い言葉に職員一同活動してまいりたいと考えております。

この言葉は、中国の聖人として尊敬を集めている殷王朝を開いた湯(とう)王(紀元前1700年頃)が好んだ言葉で、彼は毎日使う洗面器に「苟日新、日日新、又日新」という文字を刻みつけていたといわれています。書き下し文にすると、「苟(まこと)に日に新たに、日に新たに、又日に新たなり」となります。これは、本当に自分自身を今日1日で新しくし、毎日新しくし、またその日1日で新しくするという意味です。この銘文を毎日見て、王は怠らず日々自分を向上させなければならないと自らを戒めていたのでしょう。

人生を充実したものにするためにも、日々の生活を「日に新たに」の精神でやる気を起こすことが不可欠だと思います。

兵庫経済の再生には、地域の活性化と中小企業の元気回復が必要です。私どもは、中小企業のベストパートナーとして、パワーアップ・活性化のお手伝いをしてまいります。中小企業の喜びが私どもの喜びなのです。

最後になりましたが、中小企業診断協会兵庫県支部のますますのご発展と、会員の皆様方のご健勝、ご活躍を祈念しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



より魅力ある明日の兵庫を目指して

兵庫県中小企業再生支援協議会
会長 高崎 正弘



皆さん明けましておめでとうございます。

震災満十年まで残すところあと一年余りの区切りの年を迎えました。

この間、県下では、関係者全員が必死になって「創造的復興」と「地域経済再生」を目指し頑張ってきました。

世界最高レベルの大型放射光施設SPRING-8、神戸医療産業都市構想の中核となる先端医療センター、神戸空港などの各種基盤整備が進む一方で、地場産業の再生・高度化、企業誘致や新産業創出、商店街の活性化などに向けた地道な取り組みが始まっております。

しかし、このような動きをより確かなものとし、県下経済の底上げを図る為には、この一年間、集中的にかつ更にスピードを上げて、残された課題の解決に向けて取り組んでいかなければならないと思っております。

改革に奇策はなく、地道な努力、一滴でも多くの汗の結集こそが王道であると信じております。

とりわけ今急がれるのが企業再生であります。

昨年2月、政府の肝煎りで兵庫県下では神戸商工会議所内に「兵庫県中小企業再生支援協議会」が設立されました。貴協会からは当協議会への人材派遣をはじめとして、再生の可能性が高い中堅・中小企業を対象とした経営改善指導、経営改善計画策定など幅広くご支援賜っております。お蔭様で昨年中の当協議会の活動実績は全国でも上位クラスにランクされており、紙面をお借りしてご報告かたがた厚く御礼申し上げます。

当協議会としては、一社でも多くの企業再生を図り、地域再生に貢献できるよう引き続き積極的に取り組んで参る所存であります。

企業再生と並んで重要なものが、自らの夢の実現に向け寝食を忘れて取り組む起業家や第二創業に自社の将来を賭ける意欲旺盛な中小企業への多面的な支援であります。その中心的役割を担うのが、多種多様な支援機関の連携をより強化することを目的として昨年ブラッシュアップされた「中小企業支援ネットひょうご」であります。中小企業の最も身近な相談相手である貴協会会員の皆様には、総括コーディネーターをはじめ各支援機関との連携を密に、従来にも増して力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。

地方分権改革も具体化しつつあり、今後、より多くの権限・財源が地方に任され、地域の将来に対する住民・各種団体・行政等の責任も格段に重いものとなります。同時に、このような流れをきっかけとして都市間競争は益々激しいものとなり、関係者の協働による地域挙げての取り組みが強く要請されることとなりますが、協働の実を挙げる為には、関係者が自らの領域から一歩踏み出す意欲とそれをお互いに許容する文化が不可欠であります。

幸い地元兵庫・神戸には長年に亘って培ってきた「自由で開かれた風土」があります。

年頭に当り、先人から引き継いだこのよき伝統を今一度想起し、地方分権、自主・自立の流れを追い風に、企業再生、新規開業・第二創業支援などを梃子とした産業構造の変革を推し進め、「より魅力ある明日の兵庫」の実現に総力を結集することをお互いに確認し合いたいものであります。

本年もどうか温かいご叱責と変わらぬご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げますとともに、皆様にとって今年も充実した良き年でありますよう心より祈念申し上げます。



年男から 私流の生き方

- 年男の抱負 -



上住 好章(昭和19年生)

事務局より年男の抱負を書いて欲しいとのご依頼を受けました。嫌ですなえ、もう還暦ですか。誰が決めたのでしょうか。プライバシーがばれる一瞬です。この歳になって住み慣れた関西から東京へ転勤になってしまいました。今まで楽をさせていたでいた筈でしょうか。人間がその一生に被る苦勞の合計は皆一緒なのかとひがみたくもなります。

閑話休題、いまだに余り実感は湧きませんが高齢者の仲間入りをする事になります。しかし診断士の先生方はお歳を召していても矍鑠(かくしゃく)としてご活躍の方が多いのには心強い限りです。これはなぜなのでしょう。独断ですがいつも頭を使うという知的刺激の環境に居ることがその主な理由と考えています。還暦になっても、また定年退職になっても、このような知的刺激のある環境に身を置きたいと思っています。仕事以外でも...そうです、趣味の世界があるのです。

私は小さい頃から汽車や電車に乗るのが好きでした。学生時代にもそのようなサークルに入っていました。その頃の人達とは今も親しくお付き合いをしています。社会人になってからでも、外国等へ出張したときは、休日にゴルフに行く人達と別れて一人で鉄道旅行を楽しんでいました。英国、ポーランド、中国...

最近は「鉄ちゃん」等とも言われているようですが、この趣味は幼稚なものではありません。機械工学、電気工学はもとより、路線に乗っての調査は観光学、沿革を調査する産業考古学、また鉄道会社の経営状態を調べるためには経営学、と実に幅広いのです。それは何故なのか、結局、鉄道というのは社会という大きなシステムの中の一つのサブシステムとなっているからでしょう。これからも、このような心地よい知的刺激に浸る機会を求めて、鉄道旅行を楽しんで行きたいと思っています。

歳がいったから趣味を持とうと思っても中々持てないものとも聞いています。皆いつかは歳をとるのです。若いうちから趣味を持っていたことは、今になってみればとても良いことであったと思っています。

新年の抱負『私流の生き方』



松浦 敏貴(昭和31年生)

私が生まれた昭和31年の経済白書で「戦後10年日本経済は目ざましい復興を遂げた。終戦直後のあの荒廃した焼土のうえに立って、生産規模や国民生活がわずか10年にしてここまで回復すると予想したものは恐らく一人もあるまい。」と戦後復興の終了を宣言しています。しかし同時に「中小企業の振興、遅れた地域の開発、あるいは社会保障の充実等になすべきことが多い。」としており中小企業問題などの存在を指摘しています。

大学卒業後、地元の信用金庫に就職した時から自分が生まれた年に書かれた「経済白書」の存在が気になっていました。平成6年に診断士の登録、その後転職し現在、小売業の指導を中心にした仕事をしていますが、中小企業に関わる事が自分の使命であると思っています。

「根気よく、相手にわかる言葉で繰り返し伝える。」ことを心がけ、大胆な改革案を提案し実行することより相手が自発的に取り組める仕組みや考え方の定着を狙っています。

最近は、体力や気力、記憶力の衰えを感じるようになり、若い頃のようにがむしゃらに進んで行くことはできませんが、「学ぶ心」を掻き立てながら、精進してまいりたいと思います。

新年の抱負『私流の生き方』

後藤 英雅(昭和31年生)

皆様、明けましておめでとうございます。

私は、今年で48歳を迎えようとしています。とりわけ、大学を卒業してからの20余年は、瞬く間に過ぎ去ったように思えます。数年前の1月頃、小学生の長女と次のような会話を交わしました。

父…「はやいもんやなあ!! おまえ、もうじき2年生やで」

娘…「いいえ、そのようなことは、ございません。まだ、2年生まで3ヶ月間もあります。(長女は、通常このような話し方をします。念の為)」

父…「……」

私は、この会話を通じて私の積年の課題であった【加齢が及ぼす時間の短縮効果】について、再考しました。結論は、以下のとおりです。

1 比較理論説

- ① 3歳時の1年間は、自己の全生涯の1/3にも相当する。
- ② 50歳のおっさんの1年間は、自己の全生涯の1/50に過ぎない。
- ③ よって、当然のことながら同じ1年間でも両者が感じる時間的な尺度は大きく異なり、歳をとれば、とるほど1年が短く感じられるようになる。

2 初体験説

- ① 幼児や少年・少女たちは、日々新たな経験をし、知識を吸収し、成長している。
- ② おっさんは、日々同じ事をし、日が暮れると酒を飲んでただ寝るだけである。よって感動も進歩もない。退化するのみである。
- ③ この説は、おっさんが新たな仕事に取り組んだときや見知らぬ場所に移動したときに、時間が異常に長く感じられることから証明できます。

3 その他諸説

その他、色々な理由が考えられますが、紙面に限りあるため、省略します。

④ ここで言う「おっさん」とは、成人男女全般を指すのではなく、ある特定の人物(この原稿の筆者)をモデルとしました。

つまらぬことを書いてきましたが、私には残された時間は僅かしかありません。

今後、この限られた時間を夏のセミのように、一生懸命生きてゆく所存でございます。

これが、今回のテーマの「私流の生き方」です。



『人生3万日』



山川 雅広(昭和31年生)

新年明けましておめでとうございます。

いつやら、人生を1万日で3回の区切りにすることを知りました。最初の1万日、これは生まれてから27~28歳までです。この年齢に達するまでに社会のお役にたてるような能力、技術を修めること。次の1万日、54~55歳まで、存分に社会に貢献すること。最後の1万日、82歳まで、ゆっくりと余生を楽しむこと。

余生を味わうほどのゆとりは無いかもしれませんが、55歳までマネジメント・コンサルタントとしてお役に立ちたいと思います。

昭和63年に診断士になり、平成2年にお世話になったLAWSONを辞め、住友ビジネス・コンサルティング(現:日本総合研究所)に入社し“勉強をしてお金がもらえる”この仕事に就きました。このような仕事ができるのも師匠のご指導のお蔭です。セブンイレブンの加川さん、ビジコンの野田部長、平成5年に独立リアルダのメンバーとなって以来可愛がっていただいています出口さん。有り難うございます。

委員会だより

プロジェクト開発委員会

ひょうご元気企業交流会(第2回及び第3回)実施報告

プロジェクト開発委員会が主宰するHOO総研(ひょうご・オンリーワン)は、平成15年6月11日に第1回ひょうご元気企業交流会が大成功裏に発足できました。兵庫県下から勇気と智慧を出す元気な企業がますます増えることを目的にした中小企業診断士主体の活動がNHKテレビの取材を受けるなど大きな反響を呼んだことは嬉しい限りであります。

その流れを大きなものにしていく「ひょうご元気企業交流会」は顧客満足CSをテーマとして第2回および第3回の開催を行いました。第2回は10月31日に【わが社の顧客満足の点検】をかね、 「元気企業の売上増進策 - 売りに理屈はいらない、顧客満足の事例」の講義とグループ討議を行いました。第3回は11月21日に「顧客満足プロジェクトの立案」をテーマに、参加各社の顧客満足経営への取り組みを支援いたしました。甲南大学経営学部の西村教授には「顧客満足の経営」を講義願いましたが全体としては福島代表を中心としてHOO総研会員の中小企業診断士主体の講義とコーディネーターおよび参加者全員による運営であり、一人あたり1回3,000円の参加費をいただいたものの、高い評価を得られたものと自負しております。

もの余りの豊かな時代となって消費者主導の市場では、これからの企業が消費者に選択される対象である厳しい現実が進むことは間違いなく、企業経営における顧客満足CSの重要性はますます増すでしょう。そのためHOO総研は、CSを通じて更に参加者の皆様に喜んでいただける計画を提示し、経営活性化に努力して参ります。

ひょうご経営革新賞が目指されているモデルは最高の顧客満足経営として敬意を表しますが、HOO総研の目標は、もっと簡便に皆が取り組めるCS経営手法を開発することにあると考えております。会員一同智慧を絞り努力してまいりますので皆様の暖かいご協力、ご支援を賜ればありがたいです。来春につぎの元気企業交流会を開催させていただく予定です。

(文:森 博人)

会員研修委員会

平成16年度(前期)自主研究会のご案内

日頃は自主研究会をご支援いただき有難うございます。

お蔭様で平成15年度も、順調に進行して参りまして、平成16年度前期の予定をご案内するはこびとなりました。

会員研修委員会一同が、「他では絶対に得られない知識と情報」をコンセプトに、よりよい自主研究会を目指して知恵を絞った結果、下記のようなテーマ・講師となりましたので、ご案内申し上げます。

自主研究会会員の皆様には、これからのスケジュールに組入れをお願いいたします。

未だ入会されていない方は、来期こそご入会されますようお勧め致します。

(会員研修委員会)

1月から9月までの自主研究会予定

日時	場所	テーマ	講師
1月13日(火) 18:00~20:00	産業振興センター 902号室	金融機関の中小企業格付け視点とは	兵庫県支部会員 竹末 文昭氏
2月2日(月) 18:00~20:00	産業振興センター 902号室	日本一のIT商工会議所を目指す	豊中商工会議所理事 事務局長 小早川氏
3月6日(土)		京都日帰り研修・京都支部との交流会	
4月5日(月) 18:00~20:00	産業振興センター	大型閉鎖店舗再生等対策のための総合プロデュース(経済産業省人材育成研修)	コープこうべ施設管理部統括部長 古野 健治氏
5月10日(月) 18:00~20:00	産業振興センター	優秀な人材を確保する方法	兵庫県支部会員 中井 嘉樹氏
6月7日(月) 18:00~20:00	産業振興センター	高専生が期待する創業のこれから	神戸市立高専生 縄野 優一氏
7月5日(月) 18:00~20:00	産業振興センター	地場産業の動向 「ケミカルシューズ」	日本ケミカルシューズ工業組合 事務局長 梅垣 昭氏
9月6日(月) 18:00~20:00	産業振興センター	研究開発型企業の開発方針	関西化学機械(株)社長 野田 秀夫氏

*問合せ先:兵庫県支部 TEL 078(361)8034 E-mail:info@shindan-hg.com



自主研究会抄録

10月度研究会

テーマ： “デフレ下のマーケティング”

長野県の温泉旅館の名物料理は、何でしょうか？

【平成15年度支部研修】

講師：株式会社 かに工房 代表取締役 川村徹教氏(63歳)

日時：平成15年10月6日(月)18:00～21:00 場所：神戸市産業振興センター903・904号室

1 講師のプロフィール

山口県下関で、その昔に庄屋であった16代続く旧家の次男に生まれる。水産高校在学中、ラグビー部に所属し三度国体に出場、名門の明治大学を目指すが無駄せず、不本意な就職。しかし、水産加工品メーカーでの業務経験は無形の資産となって、今もかけがえのない宝物として役立つ。

2 創業時代

魚類の加工品を扱い、尼崎卸売り市場の仲買人になることができ、事業も軌道に乗った頃、信頼していた取引先の債権3億4千万円が不良化。

生活費に困った時は、せりの終わった市場のごみ置き場に捨ててあるダンボールを集めて、業者に引き取ってもらった事もあった。

3 かに工房の開業(平成元年)

* 蟹へのこだわり* ①工業製品でないこと ②高級感がある ③養殖ができない

地方の小規模旅館は、何か特色を出し、コンスタントな集客を特に望んでいた。

長野県更級郡上山田温泉、岡山県英田郡美昨町など、かに料理をメインに旅行会社は頼らず、独自の営業で規模の小柄を武器にした旅館が繁盛している。

4 通販事業(平成14年5月)

「クロネコヤマト」との提携により、FAXでチラシを送り無料サンプルを試食して頂き、固定客に結びつける試みは、大ヒット。今では年商12億円の内、通販は5億円になっていて、レストラン事業の7億円に迫る。

5 経営のかんどころ

①人と会うときは、年齢差に留意して、相手に合わせた話題を選ぶ。

②働く人々には、個人の考え方、気性を早く見抜いて接し、普段のときもさることながら、慶弔のときには特別の感情が伝わるように心掛ける。

講師は、昭和56年頃から日経新聞を隅々まで熟読し、時代の流れを知悉して経営に活かしてこられたとのこと。当たり前のことを、当たり前に自然体でやった。

飾り気のない誠意に満ちた、そのお人柄から素晴らしいパワーを戴いた。

(文：大西一達)

11月度研究会

テーマ：福井県若狭の元気企業と三方町観光施策の視察

日時：平成15年11月14日(金)～15日(土)

11月例会は、総勢12名で福井県の若狭地方へ出向いた。第1日めは、小浜市で鯛づくしの昼食の後、同市にある船舶用繊維ロープメーカー 小浜製織 株を見学した。この会社は昭和19年設立、資本金5千万円、従業員数73人、直近売上高12.7億円で、規模的には典型的な中小企業である。しかし、他社と大きく違う点は、資本と経営が完全分離しており内藤社長も従業員上がり(元労組委員長)であること、昭和23年から5年サイクルの中長期計画の立案実施を継続していることである。会議室で(我々のためにわざわざ作ってくれた)資料を基に社長の説明を受け、工場内の案内も社長が行ってくれた。包み隠さず見せてくれ、予定時間を超えてしまうほど丁寧な説明であった。

小浜市を後にし、三方町へ入った(この三方町は当支部千田理事の出身地で、千田町長とは隣組かつ級友である)。小浜市との境であるトンネルを抜けると、期待していた歓迎の「打ち上げ花火」と臨時休校までさせた小学生による「歓迎の旗振り」は全くなかったが、千田町長が一人で三方町縄文プラザにて待っていてくれた。

当プラザで三方湖を眺めながら、千田町長から観光施策だけでなく合併など行政の取り組みも説明頂いた。町長はなかなかのアイデアマンで、観光オフシーズンである冬でのこ入れ策として、ふぐの養殖やダチョウの飼育も行っている。1・2年後には、ダチョウの背中に子供を乗せさせたり、ダチョウレースも実現したりしたいとのこと。

その後、三方五湖レインポーラインをドライブし、8年前に国民宿舎を全面改装した町営の政府登録観光旅館「水月花」に着いた。宴会には町長も参席してくれ、自慢の喉を披露してくれた。もちろん当地のふぐをたっぷり賞味した。旨かった! 本当に旨かった!!

翌日は、旅館の前からモーニングクルーズ。湖を遊覧しながらの朝食とビールの、これまた旨いこと! 旅館を後にし、若狭三方マリンパークや三方町縄文博物館、ダチョウの飼育現場などを視察した。再び小浜へ戻って鯖館の昼食を取り、帰路に着いた。

今回の視察は、元気なメーカー、行政トップとの懇談・交流、風光明媚な景観、クルーズ、古代ロマン、若狭の新鮮食材美味など盛り沢山であった。今回参加しなかった会員さん、本当に残念でした!

(文：大場一正)



支部だより

新年明けましておめでとうございます。

本年は支部創立45周年(本部創立50周年)にあたっております。中小企業基本法が改正されて4年、我々中小企業診断士も多様で活力ある中小企業の振興支援のため、ますます努力することを求められています。総務委員会では各委員会と協力し各種のイベントを企画し、会員諸氏の活動の一助になればと考えております。企画案の提案等、皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

総務委員会では支部運営に関する諸規定の整備について昨年来準備を進めてまいりましたが、今般「理事会規程」案および「役員選任規則」案を得ましたので、理事会においてご審議願っております。前者は理事会の構成・運営および付議事項について、後者は支部役員候補の選任方法について細則を定めるものであります。本年は理事および役員の改選期にあたっております。会員諸氏のご理解、ご協力をお願いいたします。(総務委員会)

各研究会スケジュール

助言技法研究会

問合せ先:兵庫県支部 078(361)8034

日時	場所	テーマ	講師
2月9日(月) 19:00 - 21:00	神戸市産業振興センター 804号室	コーチングの思考技術について	兵庫県支部会員 大西 一達氏

経営法務研究会

日時	場所	テーマ	講師
1月28日(水) 19:00 - 20:30	生活創造センター クリスタルビル6階D	労働関連法規	兵庫県支部会員 大場 畑薫両氏
2月17日(火) 19:00 - 20:30	神戸市産業振興センター 906号室	環境関連法規	兵庫県支部会員 田淵 方美氏
3月16日(火) 19:00 - 20:30	生活創造センター クリスタルビル5階A	中小企業の会計	兵庫県支部会員 大西 一達氏

コンサル技法研究会

日時	場所	テーマ	講師
1月23日(金) 18:00 - 20:00	生活創造センター クリスタルビル6階D	新しい流通事例	兵庫県支部会員 奥野 雅之氏
2月20日(金) 18:00 - 20:00	生活創造センター クリスタルビル	勝つための営業戦略	兵庫県支部会員 森 博人氏
3月19日(金) 18:00 - 20:00	生活創造センター クリスタルビル	今はやりの販売促進事例	兵庫県支部会員 小川 勝夫氏

診断技術向上研究会

日時	場所	テーマ	講師
1月21日(水) 19:00 - 21:00	神戸市産業振興センター 804号室	中小企業診断士にとってのマイニング	外部講師

企業内診断士活性化研究会

日時	場所	テーマ	講師
1月21日(水) 19:00 - 21:00	生活創造センター クリスタルビル4階B	第5回打合わせ	

自主研究会：6頁に掲載

編集後記

あけましておめでとうございます。

昨年リニューアル・オープンをした我が兵庫県支部のホームページですが、情報の鮮度の維持を心がけて1年間運営してきました。おかげさまで少しずつアクセス数が増えてきています。今年は、支部の広報ツールとして、より積極的に活用していきたいと思っておりますので、皆様も情報提供をよろしくお願い致します。

【会員ホームページのリンク先を募集します!!】

兵庫県支部のホームページから、ご自身のホームページへのリンクを希望される方は、「お名前」「ホームページの名称」「ホームページのURL(アドレス)」を、下記アドレス宛にメールでご連絡ください。お申し込み期限は1月16日です。

kick.mori@nifty.com

(森 昭彦)